

光り輝く夢と希望あふれる茨城へ



第114代議長 伊沢 勝徳氏

いざわかつのり ● 1970年生まれ。土浦市選挙区、5期。いばらき自民党。2011年文教治安委員長、15年議会運営委員長、17年監査委員、19年副議長、20年予算特別委員長などを歴任。21年から現職。趣味はお祭り参加と鑑賞、野球観戦。土浦市真鍋在住、51歳。

謹厳実直に責務果たす

県民の思いに応える

沼田 県議会議長、副議長にご就任、おめでとうございます。就任に当たり抱負をお聞かせください。

伊沢議長 県民の皆さまには日頃より県議会に対しご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。歴史と伝統ある茨城県議会議長の責務を担うこととなり、誠に光栄であることも身に引き締まる思いです。

新型コロナウイルス感染症や激甚化する自然災害への対応など、県の役割がますます大きくなる中、県議会は是非々の議論を通じて適切な意思決定を図り、県の業務を県民目線で監視するなどその機能を一層発揮していかなければなりません。

さらには多様化する県民ニーズに応えるべく、積極的な政策立案も求められています。これまで県議会で議員提案による20の条例を制定しており、私も会派の政調会長時代に「茨城県じまの根拠法を目指す条例」など複数の条例作成に携わりました。国や県の対応を待つことなく主体的に行動していくことが、県民の思いに応える県議会としての重要な役割であると考えます。

二元代表制の一翼として県議会が持つ機能を存分に発揮することが、県民福祉の向上とさらなる県勢発展につながります。私は、光り輝く夢と希望にあふれた茨城づくりに向け、謹厳実直に全力で議長としての責務を果たしていく所存です。

館副議長 このたび茨城県議会議長の要職に就任し、その責任の重さを痛感しています。今後は伊沢議長を補佐し、口滑で充実した議会運営に努めていきます。

持続的な発展のためには、感染拡大期にあっても産業や農業の振興、雇用の確保といった施策を断続なく進めていかなければなりません。

そのためには県議会は、今までも以上に県民の皆さまの思いをしっかりと受け止め、弱い立場の人に光が当たる政治を行っていくことが求められます。私は、議会改革推進会議の議長代理として取り組んだ成果を踏まえ、より県民の皆さまに身近に感じてもらえる県議会の実現と県勢発展に向け全力を尽くしてまいります。

コロナと社会経済両立

沼田 新型コロナウイルス対策についてはどのようにお考えですか。

伊沢議長 新型コロナウイルスが世界的に広がりが2年がたちました。改めて丁寧な方々のご真摯をお祈りするとともに、罹患された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。最前線に立つ医療従事者をはじめ、感染拡大防止や社会経済活動の維持にご尽力されてきた全ての皆さまに心から感謝の意を表します。

国内の感染者数は年明け以降急激な増加に転じ、本県でもまん延防止等重点措置が適用される事態となりました。これまでの教訓を生かした適切な医療の提供やワクチン3回目接種の促進など、県民の命を守る対策に全力を注ぎ、これ以上の感染拡大を食い止めなければなりません。

一方、感染防止の徹底を図りつつも、ウィズコロナ、アスターコロナを見据えた経済活動への支援も重要です。県議会は、先頃開催した臨時会において、医療機関や事業者の皆さまの声を踏まえ、無料検査体制の構築や観光業をはじめとする地域経済への支援など、感染拡大を防ぎ社会経済活動を維持するために必要な補正予算を決定したところです。

県議会としては、引き続き、迅速かつ適正な審議を通じて、感染防止と社会経済活動の両立に必要な最善の施策を推進してまいります。

県民目線で幸福追求を

沼田 2期目が始動した大井川県政への期待はいかがですか。

伊沢議長 1期目の大井川県政を振り返ると、大型補助金などによる企業誘致をはじめ、産業、医療、教育など県政全般にわたる次々と新しい政策が打ち出されました。スピード感や「選択と集中」を旨とした政策形成の過程では議会も時に激しいやり取りが行われましたが、真摯な議論を通じてこそ県民の負託に応える県政が実現できると考えます。

県総合計画も改定期を迎え、知事は「新しい豊かさ」など四つのチャレンジの継続や、「県民が日本一幸せな県」の実現に向け、幸福度を把握する客観的指標の導入を検討していることと伺っています。県民の皆さまにも、効果の高い施策はさらに強化していくことが求められると

弱者に光当てて政治行こう



第115代副議長 館 静馬氏

たち・しずま ● 1967年生まれ。水戸市・城里町選挙区、4期。いばらき自民党。2013年土木企業委員長、19年議会運営委員長、監査委員などを歴任。21年から現職。趣味は釣り。水戸市加倉井町在住、54歳。

開かれた県議会へ 正副議長に聞く

昨年12月の茨城県議会第4回定例会で第114代議長に伊沢勝徳氏、第115代副議長に館静馬氏が選出され就任した。新型コロナウイルスの収束がいまだ見通せない中、県民生活を持続向上させるためには、感染症対策と社会経済活動の両立が求められる。2期目がスタートした大井川県政に県民の声を届ける重要な役割を持つ県議会。コロナ以外にも少子高齢化や災害対策、脱炭素化など県政の課題は山積する。かじ取り役を担う正副議長に「光り輝く夢と希望にあふれた茨城の実現」へ展望を聞いた。(聞き手は沼田安広茨城新聞社長)

ともに、幸せな県とは何か、幸福とは何かを県民目線で追求していくことが重要です。

私はこれまで、「子どもたちの将来のためのまちづくり」をスローガンに活動してきましたが、幸福とは今の時代や自分だけがよければ良いということではなく、子どもたちが生きる未来を見据えた先に、本当の幸福の意味があると考えます。知事には「目先の成果だけに終わらず、将来を展望した高い視座を持って、持続可能な子どもたちが生まれて良かった、住んで良かったと思える茨城づくりを期待します。」

少子高齢化、施策手厚く

沼田 少子化、高齢化社会への対応についてはいかがですか。

伊沢議長 私は子育て世代の一員ですが、子どもはまさに家庭の宝、地域の宝です。光り輝く夢と希望にあふれる茨城の実現には、将来を担う子どもたちの健全な成長を支える環境づくりが重要です。少子化を食い止め、希望する子どもの数が持てる出産、子育て支援策を推進するとともに、大切な子どもたちを貧困や虐待から社会全体で守る取り組みが求められます。そして、学力の向上はもちろん、思いやりのある豊かな心と、社会のルールや互いを尊重する意識を身に付けるなど「生きる力」を育むほか、郷土への誇りと愛着が持てる教育の推進も大切です。

また、直近の国勢調査で本県の65歳以上高齢者が29%に達するなど長寿社会が進展する中、高齢者の皆さまが安心して暮らせる地域社会を構築しなければなりません。私も祖父父母からはさまざまなことを学び育ちましたが、先輩方には、培った知識や経験を生かし、人口が減少する本県経済に元気を与えていただくことと、家庭や地域の知恵袋として子どもたちの健全な成長を導いていただくなど、長寿社会の中で生き

がいを持ち、一層のご活躍が期待されることとあり、そのための手厚い施策展開が求められます。

女性の活躍欠かせない

沼田 女性が輝く茨城づくりについてはいかがでしょう。

伊沢議長 私は、女性議員の秘書を経験しましたが、多様性を互いに尊重し、女性が個性と能力を十分に発揮して、ますます輝き活躍できる茨城づくりが重要と考えられています。女性が就業率が男性並みに上昇すれば、我が国のGDPを10%押し上げる効果があるとの民間レポートもあり、女性の活躍が持続的な社会経済の発展には欠かせない視点です。

SDGsにジェンダー平等が位置付けられ、女性の社会進出への意識は高まりつつあります。一方で新型コロナウイルスは、非正規雇用者が多い女性

脱炭素リーディング県

沼田 本県産業の振興についてはいかがですか。

館副議長 あらゆる産業でのデジタル化、カーボンニュートラルなどの進展は、製造業が多く科学技術の蓄積もある本県において、新たにビジネスを創出するチャンスでもあり、道路実延長や、1世帯当たりの自動車保有台数が全国トップクラスの本県は、運輸部門でのカーボンニュートラルに向け、電気自動車などの導入促進策を官民一体で進め、脱炭素へのリーディング県として新たな投資呼び込み、産業振興につなげていくことが重要です。

また、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、いまだ回復途上にある飲食店をはじめとした商業・サービス業の皆さまからは悲痛な声をお聞きしています。経済活動の制限は、同時に生活困窮者の増加や巨額の財政負担を生むなど、厳しい副作用をもたらすことを私たちは経験してきました。店舗などの安全安全利用に向けた感染防止対策の徹底を一層図るなど、経済を止めることなくこの難局を乗り切り、さらなる発展を目指していかねばなりません。

北関東3県で観光振興

沼田 観光の振興についてはいかがですか。

館副議長 新型コロナウイルス感染症再拡大により、「GOTOトラベル」の再開は見送られ、ワクチン・検査パッケージシ制度も当面停止されるなど、観光産業は再び苦境の中にあります。地域経済の要である観光の灯を消すことなく、コロナ下でも安心して旅行を業しめる環境整備を支援していく必要があります。

災害対策を加速・深化

沼田 災害に強い県土の強化についてはいかがですか。

伊沢議長 地球規模の気候変動の影響とされる大規模な風水害が頻発し、巨大地震はいつ起きてもおかしくありません。過去の災害の教訓を生かし、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を最大限活用した道路・河川の整備や土砂災害対策などに取り組み、災害に打ち勝つ強靱な県土づくりを着実に進めていく必要があります。

財産を守る上で、消防団は大変重要な役割を果たします。加えて、復旧復興時には多くのボランティアの活躍が必要です。県議会は、2020年に議員提案により「茨城県災害ボランティア活動を支援し、促進するための条例」を制定しましたが、ボランティアの皆さまによる善意の取り組みを、最大限生かせる体制整備を進めなくてはなりません。

県民の命を守る医療体制

沼田 地域医療の充実についてはいかがですか。

館副議長 誰もが安心安全に暮らせる医療体制の構築に向け、本県が抱える医師不足と偏在の解消は県政における重要な課題です。医師を呼び込み定着させるため、若手医師のキャリアアップを支える優れた指導医の招へい・育成や、地域性などの修学生医師が県内勤務義務期間終了後も引き続き茨城に残り勤務していただく施策など、他県と差別化した魅力的な取り組みを一層進めていかねばなりません。

また、県民の命を守るため、救急医療体制の整備やがんなどの政策医療の推進が重要です。私はこれまで、がん検診推進などに向けた県条例の制定や、女性目線に立ったがん患者へのウィック補助などを推進し、実現してきました。しかし、2020年にがんと診断された方は全国で約6万人減少しましたが、これは新型コロナウイルスによる受診控えが影響したと分析されており、がんの見逃しが増えているものとして問題となっており、過度な受診控えは健康上リスクを高める可能性があり、県は健診や持病の治療などを積極的に啓発していく必要があると考えます。

沼田 議会改革についてはいかがですか。

館副議長 県議会は、伊沢議長のご言葉にもあった通り、これまでに20の議員提案による条例を制定してきたほか、この数年、知事提案の予算案や条例案を、是非々の議論により県民の声を反映させる形で修正するなど、議会の機能を大きく発揮してきました。その結果、議会の機能強化」の分野で高い評価を受け、早稲田大学マニフェスト研究所が実施している2020年の議会改革度調査の都道府県ランキングでは、全国第2位となりました。

さらに昨年は、県議会改革推進会議が設置され、私も議長代理として議会への住民参画や情報発信などに力点を置いた議論を進め、休日議会の開催や県議会公式ツイッターの開設、住民モニター制度の導入などとして結果したところです。

改革は自己満足に終わることなく、外部から厳しい評価を受け、さらなる見直しを進めることが重要です。伊沢議長を補佐し、現状に甘んじることなく全国一位を目指してより一層の改革を進め、県民の皆さまに身近で分かりやすい県議会を実現していきます。